

## 『みんなのスポーツ』7月号（No.495）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の7月号は「**二極化する総合型クラブと地域の未来**」の特集号です。

私の視点にて今月号で気づいたこと・参考になる点を3点記載します。



### 1 「スペシャルインタビュー」東北高校野球部監督 佐藤 洋氏

佐藤さんのように「古い慣習を変えようとする」と、周囲から叩かれることも多いが心が折れたことはありませんか？」に対して、言いたい奴には言わせておけばよい。佐藤さんは悪口を言われるとやる気が出るタイプ。原点は少年野球スクールの指導で子供達から、「野球を始めた時は楽しかった、部活動になったらコーチから怒られて楽しくなくなった」と聞いたこと。「野球は楽しいもの」という原点に立ち帰り「楽しい野球」を返してあげる。林も野球をやっていたが桑田真澄さんの本を読んだ時「野球は失敗から学ぶ競技」だと考えている、同感！ カいっぱいやって大いに楽しめが良いと感じました。

まもなく児童の球技大会もあります、子どもたちの元気でカいっぱい取り組む姿勢と笑顔が見たいと感じています。

### 2 「わが町の健康・体カづくり」神奈川県大和市

藤沢市とともに毎年9月に持ち回りで交流会を行っている市です。知っていることが多く記載されていますが、改めて一字一句読み込んでいくと「なるほど」や「そんな仕掛け・熱意」のようなものが感じられます。市民が興味を持ち、楽しんで頂けるニュースポーツの模索、選定を行い、指導、普及できるように習得し、必要に応じてアレンジを加え、体験、参加いただける機会を提供していくことが必要といわれる所は全く同感。横須賀の地域を見て回っていても同様に取り組んでいる学区もある、みんなと一緒に一歩踏み込むことが重要だと痛感。交流会で話を聞く機会があります、参加頂き取り組みの確認や交流を深めましょう。

### 3. ペップトーク（勇気づけるまたは夢中にさせるトーク）

あのWBC決勝前に大谷翔平選手のショートスピーチが事例として紹介されています。「僕からひとつだけ・・・憧れるのはやめましょう・・・僕らは超えるために・・・トップになるために来たんで・・・勝つことだけ考えて行きましょう。さあ行こう！！」

大谷さんのトークは、まず「して欲しくないことを明言して、理由・目的を語り、具体的にしてほしい言葉にしてから、さあ行こう！」と締めくくっています。このパターンは使えます。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて（行動）みませんか？

\* 本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上